まちナビ

男同士、当事者同士、介護のことを話そう

「男性介護者のつどいTOMO」が発足しました

昨年12月、介護をしている男性同士がお茶を飲みながら語り合える集いが、中京区の喫茶店で催されました。その会「男性介護者のつどい　TOMO」の主催者で、自らも介護経験者である男性に話を聞きました。

「男性には〝介護の苦労を人に話してはいけない〟と思っている人が多いですが、当事者同士で話すと楽になれる。共感の早さ・深さが違いますから」と山内さん（撮影／山﨑晃治）

「17年ほど前、妻が脳内出血で倒れ、車いす生活を余儀なくされました。同じころ、同居していた母親が認知症であることもわかって…」

突然始まった妻と母の介護を、山内輝昭さん（65歳）はこう振り返ります。

「自営業で時間の融通が利くとはいえ、仕事との両立がつらかった。家に主婦が2人いた生活から一転、試行錯誤の連続でしたね」

育児や家事を経験している女性に比べ、男性の介護はすべてが不慣れなところからのスタート。

「周りには同じ境遇の男性はいませんでした。自分の苦しみをわかってくれる人がほしかった」と言います。

9年前に母をみとり、昨年には妻が施設入所したという山内さん。10年以上にわたる介護の後

男性介護者の活動を応援しています

立命館大学教授　津止正敏さんより

全国各地でも、こうした活動が生まれ始めています。介護の大変さに押しつぶされず、また介護保険という制度を黙って受け入れるだけではなく、介護する人・される人の視点から変えていくために声をあげていく、「介護者による運動」の新しい担い手としての男性たちに期待しています。要介護者500万人、男性介護者100万人の時代。一人ひとりの声はか細くても、100万人、500万人の声となり運動となれば、世の中を動かす力になると思います。

〝いつかは京都じゅうに広げたい〟

「男性介護者のつどい　TOMO」を立ち上げたきっかけは、立命館大学産業社会学部教授の津止正敏さんらが2009年3月から始めた「男性介護者と支援者の全国ネットワーク（男性介護ネット）」に参加したことだそう。

「会では識者を招いて講演が行われています。約1年たったころ、〝講義を聞くほかに、自分たちでも、苦労話を語り合えるような場をつくりたい〟と考えたんです」

1回目の集まりには、2日間で40人以上が来場。当日は「親を自宅で見ているが、延命措置をすべきかどうか悩んでいる」といった、かなり踏み込んだ話題も出たそうです。

「一人では抱えきれないほど重い悩みを抱えてくる人もいます。こうした話が出たとき、参加者の意見はそれぞれ。自分とはまったく異なる考え方を知ると、知恵がもらえますね」と山内さん。このほか、介護保険制度への疑問やサービスの使いづらさについて意見も出たそうです。

「世間話として終わらせるのではなく、意見をまとめて、国への提言として発信してきたい」。さらに、今後の目標として考えていることがあります。

「京都のあちこちにとうした場を増やしたい。メンバーが自分の地元でも会を立ち上げ、助け合いの輪が広がっていったらいいなと思います」

TOMOの今後の予定は表の通り。2月には、京都テルサで男性介護者を対象とした料理教室もあり。問い合わせは山内さんまで。☎075（882）2256、✉bioky oto@arion.ocn.ne.jp

12月に行われた、1回目の会のようす。参加者の中には、介護施設で働く人もいたとか。スタッフや参加者の同伴者に、女性の姿も見られます

男性介護者のつどい　TOMO

【日時】
1月12日（水）・13日（木）、2月9日（水）・10日（木）、3月9日(水)・10日(木)午前11時30分～午後2時
※毎月第2水・木曜に開催

【場所】
喫茶「ほっとはあと」（中京区西ノ京東中合町48。御池通西大路西入ル北側、地下鉄「西大路御池」駅3番出口横）

【参加費】
実費（飲食代）

【参加条件】
男性介護者とその家族・支援者
事前申し込み不要。当日来場を